

## 2022年度（2022年5月1日～2023年4月30日）事業報告書

特定非営利活動法人 CFF ジャパン

### 【概況】

2022年度はコロナウイルス感染症の影響により中断していた海外ボランティアプログラムを部分的とはいえ2年半ぶりに再開できたことが一番の出来事である。過去2年半で活動的にも経営的にも大きな打撃があったが、新たなボランティアリーダーや体制の元で再スタートを切り、ここから再びつなげていく。

その他特記事項として、創設者二子石章氏の死去（2023年1月）、社会貢献支援財団の社会貢献者表彰（2022年7月）が挙げられる。

### 【1】 ワークキャンプ・スタディツアーを通じた青年育成事業

事業名	分類	内容・結果
海外ワークキャンプ（フィリピン・マレーシア）	再開	2022年夏にマレーシアでトライアル的に再開させ、2023年春にはマレーシアに加えて、前年夏にできなかったフィリピンでもワークキャンプを実施することができた。 本格的な再開にあたっては、参加者集めや渡航経費・現地経費の高騰といった課題が山積しているが、キャンプ参加者からその後のリーダーを担う人材が生まれ、広報体制も外部の専門家とともに新たな体制で臨むことができた。 次年度はさらに回数を増やし、スタディツアーも実施したい。
ボルネオ島インターン留学	新規	当初計画にはなかったが、新たに長期滞在型プログラムを新設し、試験的な試みだったが1名参加者があった。今後も継続していく。

### 【2】 海外の子ども支援等の国際協力事業

事業名	分類	内容・結果
児童養護施設運営支援（フィリピン・マレーシア）	継続	引き続き、海外ボランティアプログラムや、CFFサポーターからの寄附をもとにした協働プロジェクトを通して、フィリピン・マレーシアで親と一緒に暮らせない子どものための施設「子どもの家」の運営支援を行なった。
地域の子ども支援（マレーシア・ミャンマー）	継続	マレーシアでは、現地NGOを通して無国籍児童に対する支援を行なった。JICA 草の根技術協力事業に採択されたサバ州の児童養護施設支援事業は、事業開始にあたっての現地行政との調整が長引いている。 ミャンマーは厳しい情勢が続き、進展が難しい1年となった。

CFF インターナショナル 立ち上げ支援	拡充	ワーキングコミッティを中心に諸課題を検討し、継続的に対応にあたった。現地フィリピンでの法人登記や事務所の確保などが進み、次年度からは職員を現地に派遣することとなる。
-------------------------	----	--

### 【3】 学校協働および次世代教育の実践的探究事業

事業名	分類	内容・結果
エデュケーションラボ	継続	年賀寄付金の助成を受け、昨年度から引き続き教育関係者向けに開催した。5回の研究会では「責任」「対話」「導く」「委ねる」「外国につながる子どもたち」といったテーマについて深めた。
学校との協働プログラム	継続	昨年度からの継続のオンラインプログラムが中心となったが、特に茨城県教育委員会や角川ドワンゴ学園とはさらに発展したプログラムとすることができた。次年度に向けては現地でのフィールドワークを実施したいとの問い合わせが複数あり、それに向けた現地調査も行ったので、今後に期待したい。

### 【4】 地域の共生社会づくりに関する事業

事業名	分類	内容・結果
そだちあいの子育てひろば	継続	「キリン・地域のちから応援事業」の助成を受け、地域の親子のための居場所づくりを行なった。フリーのひろばとしての開所時はそこまで利用者が定着していないが、子育てに関するプログラムでは、子どもの成長を共有し合う場を持つことができた。子どもに対する理解を深め、自分なりの子育てを確立し自信をつけていくなど、親子で育ち合う一助となった。
小学生向け学習支援「まなカフェ」	継続	「世田谷区子どもの学び場運営スタートアップ事業」の助成を受け、小学生向けの学習支援を行い、子どもの居場所として定着することができた。高校生・大学生のボランティアが子ども一人ひとりへの伴走支援やイベント実施に従事し、多様な背景を抱えた地域の若者の社会参画の場ともなった。
地域インターンシップ世田谷	継続	新たに世田谷区子ども・若者支援課との協働事業として、昨年度よりインターン生・受け入れ団体など規模を拡大して実施した。学生と地域が会える場をつくることができ、次年度からは実行委員会が団体として独立し、出会いからつながりづくりまで目指していく。